

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	24-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Impact of Alcohol Consumption on Lifespan: a Mendelian randomization study in Europeans アルコール消費が寿命に与える影響：ヨーロッパ人を対象としたメンデル無作為化研究		
執筆者		
Jiesisibieke ZL, Schooling CM.		
掲載誌		
Sci Rep. 2024 Oct 25;14(1):25321. doi: 10.1038/s41598-024-73333-8.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取、メンデルランダム化、寿命、性差	39455599	
要旨		
<p>背景：アルコールは広く消費されている一方で、観察研究に基づき健康への悪影響のリスク因子として認識されている。アルコールが寿命に与える影響については依然として議論があり、この評価を可能にする臨床試験は存在せず、今後も実施される可能性は低い。本研究では、喫煙や教育の影響も考慮に入れ、男女別にアルコール摂取が寿命に与える影響を評価するため、メンデルランダム化 (MR) を実施した。</p> <p>方法：遺伝子とアルコール・ニコチン使用シーケンシングコンソーシアム (GSCAN) のゲノムワイド関連解析 (GWAS) に参加したヨーロッパ系 2,428,851 人の参加者から得られた、強く ($p < 5e-8$)、独立 ($r^2 < 0.001$) したアルコール摂取の遺伝的予測因子を用い、寿命 (父親および母親の到達年齢) と UK Biobank の登録時年齢に関する男女別 GWAS に適用した。多変量 MR を用いて喫煙と教育の影響を調整し、対照アウトカムとして収縮期血圧と拡張期血圧を用いた。主要解析は逆分散加重法で行い、感度解析を実施した。</p> <p>結果：アルコール摂取は全体で寿命を短縮 (対数変換した 1 週間あたりの飲酒量あたり -1.09 年 [95%信頼区間: $-1.89 \sim -0.3$])、男性では -1.47 年 ($-2.55 \sim -0.38$) であり、この傾向は喫煙 (-1.81 年、$-3.3 \sim -0.32$) および教育 (-1.85 年、$-3.12 \sim -0.58$) を調整した後も認められた。感度解析やアルコール使用と生理学的に関連する遺伝子変異を用いた解析でも同様の推定値が得られた。またアルコール摂取は高血圧と関連していた。</p> <p>結論：本研究は、アルコールが男女いずれにおいても利益をもたらさず、寿命を短縮する可能性を示しており、適切な介入の実施が求められる。</p>		